

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成24年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2172200210&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様ひとり一人がその方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し、尊厳が守られるケアを念頭におき、支援に努めている。また、重症化の状況にも対応し、御家族様や主治医と連携を図りながら終身まで看取らせて頂く体制づくりをしています。
 常日頃より、御家族様からの相談や要望にも耳を傾けご本人のみではなく、御家族様にもご満足いただけるケアが提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根付いて(関わり合いながら)その方らしく最後まで生き抜いていただく」という事業所の理念を、話し合いを重ねながら築き上げ、その実践に向けて、管理者・職員が一緒になって取り組んでいる事業所である。利用者に寄り添い話を聞くことで、利用者との信頼関係を作り上げ、その意向や思いに応え、利用者の能力を活かすように日々努めている。手紙や電話で家族と頻りに連絡をとり、家族との外食や法要場所、地域の祭りへの送迎も行って、入居前の関係が継続できるように支援している。入居時に、重度化した場合や看取りの方針を説明しており、状態が変化したときは、その時々家族や協力医、協力病院と話し合いながら看取りまで対応している。事業所内で一緒に看取りたいという家族の要望にも応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心身の唱和を朗唱すると共に、その理念を全職員で共有し、実践するよう日々意識し努めている	地域に根差し地域と関わりあっていくための理念を、職員間で話し合い、さらに具体的な表現に改善してきた。全職員は、日々実践しながら、毎月の会議時にもケアの話に結びつける等話し合いを重ね共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店に出向いたり、周辺を散歩するなど、日常的に地域と繋がりながら暮らせるよう努力している。又、2つの保育園と交流があり、歌・鼓笛・クリスマス会などを一緒に楽しんだり、運動会の競技に参加するなど事業所外での交流の場もある	保育園の運動会に参加したり、事業所の行事に招いたりと双方向の交流をしている。また、小学校の登下校身守り隊も受けている。自治会へは、運営推進会議の開催案内を渡すなどしているが、地域の情報は充分には得られておらず、日常的な付き合いまでには至っていない。	町内会や自治会へ積極的に働きかけて、地域活動の情報を得た上で参加するなど、地域の一員として更に関わりを深めた活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・御家族や面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスや、サービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議においては、活動状況や取り組みを報告することで、他の現状を知り、お互いを高めあうよい刺激となっている。又、御家族や地域の方の意見を伺い、意見を基にサービス向上に活かせるよう努力している	4施設合同の会議を行うことで、市の担当者の出席も得られるようになってきているが、家族の意見やそれぞれの事業所の問題点が現れにくくなっている。活動状況や事故の報告、評価の報告などを行っているが、評価結果を活かす取り組みは行っていない。	各事業所単独での会議の開催も検討されたい。また外部評価結果についての展開にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている	認定更新の代行や会議の案内をする等、市の窓口に向く機会を積極的に設けている。入居状況や地域の高齢者のことなどを、折にふれ情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されている御利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるようなケアを目指している	身体拘束の内容や弊害については、勉強会や職員会議で周知している。問題が生じた時には、職員間でよく話し合い知恵を出し合っ、拘束をしない対応を工夫している。また、言葉の拘束にも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会で学んだ内容を参考に職員会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで、正しい知識を理解し話し合い検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に職員が参加しており他の職員にも情報提供するようにしている。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援出来る体制づくり活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時には、管理者・職員自らご家族に話しかけ、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。ご意見を頂いたり、アンケートで要望が出たときには職員間で共有しケア・運営の向上に取り組んでいる	家族アンケートで要望を尋ね、3か月に1度の定期の便りや必要時に便り・電話で意見を引き出す努力をしている。利用者や家族には笑顔で接し、話しやすい雰囲気を作っている。利用者の「家族に電話したい」という思いや、家族アンケートで出された意見などには職員間で話し合い、できるだけ応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員間でも意見や提案がしやすい雰囲気づくりを心掛けている。職員から出た意見などは、トップマネジメント会議で話し合ったり、ホーム長に早い段階で相談するなど職員の意見が反映するよう取り組んでいる	代表者や管理者は日頃から何でも言える関係を築いている。出された意見は、会議やカンファレンス時に議題として取り上げ、「とりあえず行ってみる」との方針で取り組んでいる。日常業務に支障が生じていたマンホール清掃を、職員の提案で外部委託するようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等、現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、外部講師による介護技術研修も実施している。また、施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上が図れるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所幹部職員で毎月会議・勉強会を実施することで個々の事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。また、他グループホームと合同で催し物を行い交流する機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において生活状況や 家族関係を把握するよう努めている。御本人の気持ちを受け止め入所生活に活かせるよう早期から信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など これまでの経緯についてゆっくり話を伺いご家族と話し合いながら早期に信頼関係を築ける様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思い、状況等を確認した上で可能な限り柔軟な対応をおこない少しでも必要としている支援に添える様相談を繰り返し努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや苦しみ、不安、喜びなど共感し傾聴を念頭に共に支え合える関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めご本人を支えていくための協力関係が築けるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と馴染みの美容院に出かけたり盆や正月に家族と一緒に過されるご利用者様もいる。状況によっては、自宅に送迎するなど馴染みの場所、人とのつながりを継続できる様支援している	入居の時に聞きとった情報シートを活かし、その人らしく生活できるよう、把握に努め支援している。手紙や電話での連絡、家族との外食や法要場所・地域の祭り等への送迎支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の時間は職員も一緒のテーブルで、利用者とは話し楽しい時を持つようにしている。気のあった利用者同士で散歩、日光浴、喫茶店等、関係が円滑になるよう働きかけをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まい(他の施設)に移られて場合でも 相談に乗ったり その後の状況把握に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で雰囲気や仕草、言動などから、思いや意向の把握ができるよう信頼関係の構築に努めている。困難な場合には、御家族からの情報をもとにケアに活かすよう努めている	日々寄り添い、入浴時などにも話を聞き、思いや希望を伝えてもらえるような信頼関係を築きあげている。表出できない方は、行動や表情等を日々観察し、また、職員間で話し合いながら、どのようにしてほしいかの思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、ご本人や家族等の日々の関わりの中で 生活歴等暮らしの中で取りいれていける様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズム 心身状態を記録し 職員が情報を共有し現状が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には、日々の生活の中で思いや意見を聞き、職員全員で意見交換を行っている。その意見を基に介護計画を作成し、現状に即したものを作成するよう努めている	職員会議時に3か月毎のカンファレンスを行い、毎月のモニタリングや家族・医師の意見を反映させ、担当を含む全職員で話し合っ介護計画を作成している。入院時には、ほぼ毎日面会に行き、細かな情報を得て、退院後の計画作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事、水分量、排泄等身体的状況 日々の暮らしの様子を記録し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎、家族の方への夕食の提供をする等、個々の満足度を高める様柔軟な支援に努力している		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼び掛け周辺情報や支援に関する情報の交換、協力関係を築ける様努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、入所後もご本人・ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて、家族の代わりに受診の付き添いも行っている	入居時に家族・本人と話し合い、協力医の訪問診療を受けている方が多い。入居前のかかりつけ医には家族とともに受診している。家族の都合が悪い時は職員が付き添い、情報の共有を行っている。また、希望により、歯科医の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で報告し必要に応じて協力医療機関への受診や投薬が受けられるよう支援に心がけている。看護職員不在時は電話での対応や、他施設の看護職員との連携もはかり対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の不安や混乱を最小限にし安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携を図りながら情報提供するよう心がけている。入院中も1～2日に1度は看護職員や介護支援専門員が見舞うようにしている。また、回復状況により早期に退院支援へ結び付けられるよう情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化や終末期については、入居時や状況が変化した時などに、利用者や家族と話し合いを重ね、確認している。状態が変化したときは、その時々協力医、協力病院とも話し合いながら対応している。家族が泊まって看取った例もあり、職員は悔いの残らない介護をしたいとの思いで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。また救命士による蘇生訓練を実施指導受けられるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災避難訓練時には、実際に介護職員の緊急連絡網を使用し、応援体制について再確認している。又、運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設、市町村、警察署との継続的な協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制についての意見交換のにより、協力体制の構築に結びつけられるよう努めている	消防署、市、警察などの協力を得て、夜間想定避難訓練をし細かくシミュレーションを行い、連絡網も確認した。夜勤者のみで避難させることの限界等、問題点も明らかになったが、地域住民の訓練参加を含んだ協力体制の構築には至っていない。	地震・水害を始めとした自然災害等様々な場面を想定した避難訓練を、地域住民の協力・参加も得て、早急に実施されたい。そのためにも地域住民との協力関係の構築に積極的に取り組まされたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りや人格を尊重し、言葉かけ等については、会議で話し合い、ご本人の気持ちを大切にさりげないケアを心がける様努めている	年配者を敬う気持ちを大切に接している。居室への入室時は必ず声をかけ、トイレ誘導の言葉かけや排泄時の身守りも、利用者の気持ちに配慮しながら、さりげなく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせ声かけし日常の中で表情や反応を注意深くキャッチしながらご本人の選びやすい場面づくりをしている。また、外食時にはご自分でメニューを選んでいただくなどの場面もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしそれに合わせた対応をこころがけている。その日のコンディション 様子を見ながら希望を尋ねたり相談しながら過していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めている。個々の生活習慣に合わせ支援し馴染みの美容院で希望に合わせたカットをしてもらえるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを工夫し、むかしの料理法を尋ねたり職員と同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる雰囲気作りを大切にしている。また、毎日の日課として利用者の方がテーブルを拭く、おしぼりを配るといったことにも参加していただいている	利用者も食事の準備や片付け等を一緒に行っている。利用者の好みに配慮したメニューを職員が手作りしており、同じテーブルで食事し、介助しながら楽しく食事できる雰囲気を作っている。また、食材の組合せや調理法を工夫し、白玉と豆腐でお餅食感の雑煮を作り、みんなで祝うなど、四季折々の行事食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を把握している。食事量、水分量も個別に合わせて確認するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所に行っていただき一人ひとりに声かけし見守り時には介助し毎食後のケアを行うようにしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意の無い場合であっても、声掛けによりトイレ誘導し座ることでの排泄習慣を大事にしている。オムツやパット類も、どの時間帯にどの様なものを使用するか明確にし、ご本人のリズムで出来るだけ自立した排泄行為ができるよう支援をしている	トイレでの排泄の気持ち良さを感じてもらうことを大切にし、排泄チェック表を利用したさりげない声かけでトイレ誘導している。夏場の昼間は布パンツで過ごせるようになった利用者もある。排便はなるべくトイレで行ってもらおうこととし、寝たきりの利用者も職員二人で介助してトイレでの排便につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し朝食前に牛乳をお出ししたり十分な水分摂取の提供に取り組んでいる。体を動かしていただけるように散歩、体操にお誘いする		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望の時間に合わせて入浴して頂いている。言葉かけや対応の工夫もしている。一般浴槽に入れない方には隣接した施設において特殊浴槽での入浴も行っている	希望する日や時間に楽しんでもらっている。目立たぬようそっと見守ることで、ゆっくり入りたいという希望にも応えている。隣接のグループホームの特殊浴槽を借りて利用させてもらうことで、個々の利用者に合わせた安全な入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整える様努めている。安定剤を飲まれている方の睡眠状況を把握している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明ファイルを保管し職員が内容を把握できるようにしている。服薬後はきちんと服用出来ているかの確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝える。苑の畑の収穫や習字、お茶パック詰め、新聞折等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレス発散の為外気浴、外でのティータイム、近くの喫茶店に出かけられるよう支援している	近所の喫茶店や散歩には、日常的に出かけている。動けない方も、10時のコーヒータイムは玄関を出たところで外気浴しながら楽しむ等工夫している。千代保稲荷や木曾三川公園、養老公園、季節の花見、商業施設のフードコート等にも職員と一緒に出かけている。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額の所持金を持っていたりできるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に添い家族に電話しやすい声かけを行う。かけられない場合は職員が支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りは季節の花や生活感のあるものを活用しながら暮らしの場を整えている	日向ぼっこが出来る中庭の廊下や、吹き抜けの明るい居間では、利用者がそれぞれ好きな場所でゆったりと過ごせるよう工夫している。習字や手芸作品、行事写真等を飾って季節感を出し、加湿器で湿度調節をするなど、居心地の良い空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされる時は 仲の良い入居者同士がくつろげるよう工夫している。思い思いの場所でゆったりくつろいで頂けるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、家族の写真といった馴染みの品や思い出の品々が持ち込まれ利用者の居心地の良さに配慮している。お位牌や遺影を飾り、朝晩にお経を唱えるといったご本人が居心地よく過ごせるような環境づくりも配慮している	入口の暖簾はそれぞれ色や形の違うものを掛けて個性を出している。家族の持参した花を、利用者が自分で活けて居室に飾り、家族の写真や家具を持ち込むなど、その人らしい部屋となるよう支援している。持ち込まれた物は、できるだけ利用者の目線の先に配置するよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時は、その都度職員で話し合い御本人の不安材料を取り除く自立支援につなげられるよう工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	平成24年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati.onPublic.do?JCD=2172200210&SCD=320&PCD=21□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心得の唱和を朗唱すると共に、その理念を全職員で共有し、実践するよう日々意識し努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの喫茶店にて出向いたり、周辺を散歩するなど、日常的に地域と繋がりながら暮らせるよう努力している。又、2つの保育園と交流があり、歌・鼓笛・クリスマス会などを一緒に楽しんだり、運動会の競技に参加するなど事業所外での交流の場もある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・御家族や面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスや、サービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議においては、活動状況や取り組みを報告することで、他の現状を知り、お互いを高めあうよい刺激となっている。又、御家族や地域の方の意見を伺い、意見を基にサービス向上に活かせるよう努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を職員会議を通じて理解徹底に努めている。入所されている御利用者様に抑圧感を感じさせない暮らしができるようなケアを目指している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会で学んだ内容を参考に職員会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施することで、正しい知識を理解し話し合い検討するような管理体制や職場風土の構築に取り組んでいる		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に職員が参加しており他の職員にも情報提供するようにしている。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援出来る体制づくり活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時には、管理者・職員自らご家族に話しかけ、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。ご意見を頂いたり、アンケートで要望が出たときには職員間で共有しケア・運営の向上に取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから職員間でも意見や提案がしやすい雰囲気づくりを心掛けている。職員から出た意見などは、トップマネジメント会議で話し合ったり、ホーム長に早い段階で相談するなど職員の意見が反映するよう取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等、現場で起きている状況の把握に努めて必要に応じて迅速な対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、外部講師による介護技術研修も実施している。また、施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上が図れるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所幹部職員で毎月会議・勉強会を実施することで個々の事業所で抱えている問題や活動状況を共有し情報交換できる場がある。また、他グループホームと合同で催し物を行い交流する機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況や心身の状態を把握し、本人の思いを受け止め安心して生活が出来るよう早期からの信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族からの相談や問い合わせなど、何を求めているのかじっくりと話を聞き、早期に信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族や本人の思いを踏まえて、状況に応じてホームとして出来ること、出来ないことを明確に伝え、必要な支援を提供し、相談に応じている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族と離れて暮らす不安や苦しみを共感し、本人と職員が共に協働しながら生活できるような場面づくりを工夫し、声かけに配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時には、日々の暮らしの出来事や情報の共有に努め、本人を支えて行くための協力関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真や手紙などでの状況報告を行っている。要介護状態となり家族での自宅への帰宅が困難になった方でもお盆や法事などの場面において出来る限り家族の意向に添えるよう送迎を支援したり、関係が途切れないよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとり一人の精神状態を把握し、お互いの生活に負担が生じないように注意深く気配りをし気の合う利用者同士過ごすことが出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談に乗ったり、再入所して頂きやすい体制を心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で本人の表情や真意を推し測り、情報を共有しながらケアに活かしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を把握するために、好きだったものや、得意だったものを聞き出し暮らしの中に取り入れることができるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、体調、心理状態を細かく記録し、本人の全体像の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族との関わり合いの中で、思いや意見を聞きだし、その方らしくよりよく暮らせるよう職員全体で話し合い意見交換を行い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報交換(申し送りノート・口頭での説明・介護記録)や日々のケアの気づきを記録し、利用者の状況に合ったケアの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望、相談に応じて通院やお盆、法事等での自宅までの送迎などにも臨機応変に対応し、個々の満足度を高める様、柔軟な支援に努めている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼び掛け周辺情報や支援に関する情報の交換、協力関係を築ける様努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、入所後もご本人・ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて、家族の代わりに受診の付き添いも行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で報告し必要に応じて協力医療機関への受診や投薬が受けられるよう支援に心がけている。看護職員不在時は電話での対応や、他施設の看護職員との連携もはかり対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の不安や混乱を最小限にし安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携を図りながら情報提供するよう心がけている。入院中も1～2日に1度は看護職員や介護支援専門員が見舞うようにしている。また、回復状況により早期に退院支援へ結び付けられるよう情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、ホームの方針について説明し、ご本人御家族の意向を踏まえ、終末期には御家族、主治医、職員間での情報の共有や統一したケアの方向性を定め安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。また救命士による蘇生訓練を実施指導受けられるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災避難訓練時には、実際に介護職員の緊急連絡網を使用し、応援体制について再確認している。又、運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設、市町村、警察署との継続的な協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制についての意見交換のにより、協力体制の構築に結びつけられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての尊厳の念を持って接し、人格の尊重とプライバシーの保護は常に保つことができるよう対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が話す内容や表情から、真意を汲み取りご本人に対するケアの情報共有に活かしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の1日の過ごし方を把握した上で、体調・天候などによって外出や散歩が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服は直ちに交換し、整髪・洗髪の支援はご本人・御家族の意向に応じて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好品の把握と体調、口腔内や嚥下状態に応じて個別の食事形態の物を提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は介護記録に記入し、多い少ないが一目でわかるようにしている。個々のペースに合わせて提供するタイミングや、メニューを変えられるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れが出来る方は、ご自分で行っていただきその方の状態に合った口腔ケアを行っている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、ご本人の表情やサインなどを見逃さず、迅速に対応できるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排便状況を把握し、水分を多めに摂ったり、腹部のマッサージに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭用サイズの個浴に、ご自分のペースでゆっくりと入浴できるよう工夫している 立ち上がりの困難な方には特殊浴槽での入浴を行い、安全安楽に入浴ができるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力を把握し、日光浴や適度に昼寝を行うなど休息・安眠できるよう環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は職員がいつでも確認できるようにリビングに設置してある。利用者の状態に応じて、確実に服薬できるよう飲みやすさの工夫をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様との関わり合いの中で、出来ることを見つけだし、楽しみにつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の体調や天候に応じて散歩や外出支援をおこなっている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないようまた、自己管理能力を考慮しご本人・ご家族とも話し合い満足していただけるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から直接渡された手紙は必ず届くよう対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色のある色の小物を置いたり、季節の花を飾ったりと生活観や季節感が伝わるような空間づくりを心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファやロビーには椅子を設置し利用者様が自由にくつろげる空間づくりを心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品物・家具などを持ち寄り利用者様に精神的な負担がかからないよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1. 2を用いて利用者様の残存能力の把握に努めている。歩行や車椅子での動線確保に気を配り、安全で自由に動いて頂けるよう工夫している		